

平成 2 9 年 度 事 業 計 画

(1) ワーキンググループの開催（平成29年4月～平成30年3月）

昨年度に引き続き、各部会ワーキンググループにおいて、それぞれのテーマについて検討を実施する。

（各ワーキンググループを3ヶ月に1回程度開催する。）

また、ワーキング横断型の取組みに関する検討を実施する。

【素材関連ワーキンググループ】

（反射、遮熱、外断熱等に資する素材の研究、具体的活用の提案）

- ① CASBEE-HIの改訂に当たり、認証対象技術の採用に繋がるよう、認証制度の情報提供等を行い働きかける。
- ② 米国のCool wallや国際的な再帰性反射材料の取組みについて情報交換、収集を行い新たな素材に関する検討の可能性を追求する。

【熱有効活用・人工排熱低減ワーキンググループ】

(潜熱化、排熱利用、省エネ・新エネ・代エネ技術 (ESCO 含む) による対策手法の調査、活用)

[人工排熱の大気熱負荷削減効果の推奨制度の確立]

- ① 空冷空調機用排熱低減対策装置による人工排熱削減効果および熱汚染対策効果の推奨方法
 - ・ 空冷空調機用排熱低減対策装置の調査
 - ・ 蒸発量データ等による大気熱負荷削減効果の検証方法の確立
 - ・ 排気温度調査等による熱汚染対策効果の検証方法の確立
 - ・ 推奨範囲 (推奨対象, 期間など) の設定
 - ・ ピーク電力削減効果・温暖化対策効果の関連性調査

- ② 人工排熱を大気以外の媒体に処理する技術を対象にした大気熱負荷削減効果の推奨方法
 - ・ 人工排熱を大気以外の媒体に処理する技術の調査
 - ・ 河川水・海水利用、地中熱利用に関する経験を有する新たな WG メンバーの選定
 - ・ 運用データを用いた大気熱負荷削減量の効果の検証方法の確立
 - ・ ピーク電力削減効果・温暖化対策効果など関連した効果の評価
 - ・ 人工排熱を大気以外の媒介に処理する技術の設計段階における効果推奨方法の検討

- ③ 大気的直接冷却技術の調査
 - ・ 空気熱源ヒートポンプ、冷却塔、水噴霧など大気を直接冷却する技術の調査
 - ・ ピーク電力削減効果・温暖化対策効果など関連した効果の評価

- ④ 推奨制度の確立
 - ・ 設計段階と運用段階での制度確立

[熱有効活用・人工排熱低減に関する情報収集・調査、検討、及び広報]

- ・ 学術研究者や会員を講師にした関連技術等の話題提供や情報交換を行うとともに、情報収集、文献調査を実施する。
- ・ 今後、空冷空調機用排熱低減対策装置以外の新たなヒートアイランド対策技術の検討を進めるため、ゼネコン業界、エネルギー業界、自動車業界、住宅・ハウスメーカーの関係者と情報交換を行うとともに、情報収集を実施する。

【クールスポット創造技術手法ワーキンググループ】

（緑化、水活用（噴霧、散水）等技術手法の研究、具体的活用の提案）

- ① 緑化技術に関する評価シートの項目、評価手法について、引き続き検討を行う。
- ② 平成26年度に作成した簡易測定装置を活用し、測定依頼があった場合、実際の屋上等の施工現場で実測を行い、屋外現場での装置の測定性能評価を行う。
- ③ 水を利用した道路を冷ます技術など、水を活用したクールスポット創造技術に関する評価シートの項目や評価手法等の検討を行う。
- ④ 緑化が困難な場所等での保水性資材を用いた温度低減効果など新たな提案の検討を行う。
- ⑤ 昨年度実施したアンケート結果も踏まえつつ、認証制度への展開やWG活動の今後のあり方について検討する。
- ⑥ 随時、緑化技術をはじめとした様々なクールスポット創造技術に関する情報交換、及び他のWGとの情報交換を行う。

（参考）簡易測定装置を用いた測定状況



【熱負荷評価手法ワーキンググループ】

（熱負荷削減評価手法の検討）

引き続き、認証制度の対象となる技術の追加が検討される際には、関係のWGと連携して、当該技術に関するシミュレーション手法についての検討を行う。

【都市デザインワーキンググループ】

（地域における「あるべき都市デザイン」の検討・提言）

- ① クールスポット・クールロード 100 選や過去のアイデアコンペの成果を用いたワークショップを実施し、新たな対策技術、特に適応策への貢献や新たなライフスタイルのあり方等を取りまとめるとともに啓発活動のあり方を検討する。
- ② 啓発活動の一環としてクールスポット・クールロードの現地研修会を実施し、その際、暑熱環境等の計測技術を講習する。
- ③ 大阪府クールスポット 100 選（平成 24 年夏実施）及び大阪府クールロード 100 選（平成 27 年度夏実施）のホームページを継続する。

（2）認証制度運営委員会の開催

認証制度申請技術に関する審査会を年 2 回程度開催する。また、検討中の認証技術等について、各 WG との連携を図る。

（3）企画運営委員会の開催

検討部会の進捗状況等について検討するため、年 2 回程度開催する。

（4）理事会の開催

総会の開催にあたって、以下の検討を行い、総会に上程する。

- ・ 会議の進め方
- ・ 平成 28 年度事業報告、同収支決算
- ・ 平成 29 年度事業計画（案）、同収支予算（案）

(5) 平成29年度総会（平成29年6月）

以下の項目などに関する決議。

- ・ 理事及び監事の選任、再任
- ・ 平成28年度事業報告、同収支決算
- ・ 平成29年度事業計画（案）、同収支予算（案）

(6) セミナーの開催

ヒートアイランド対策技術に関する啓発セミナー等を1～2回開催する。

(7) 部会活動等の周知

各部会で検討された内容等についてニュースレターを発行する。（年2回程度）

(8) ホームページの充実

コンソーシアムの活動成果等について、随時更新を行うとともに、大阪HIT ECヒートアイランド対策技術認証制度において認証された技術等について公表する。

(9) 大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアムPR用リーフレットの配布

普及啓発、検討部会への参画を促す。

2. 収支予算（案）

単位：円

	28年度実績	29年度予算	内 容
総収入	2,313,280	2,673,308	
総支出	1,029,981	2,673,308	
次期繰越金	1,283,299	0	

【1】HITEC運営会計

単位：円

	28年度実績	29年度予算	内 容
収入			
1. 会費収入	1,250,000	1,240,000	
(1) 法人年会費	(1,150,000)	(1,150,000)	法人会員23社
(2) 個人年会費	(100,000)	(90,000)	個人会員16名
2. 事業収入	20,000	0	
3. 補助金収入	0	0	
4. 寄付金収入	0	0	
5. その他収入	16	9	
(1) コンペ事業協賛金	(0)	(0)	
(2) 受取利息	(16)	(9)	
6. 前期繰越金	846,125	1,127,564	
当期収入合計	2,116,141	2,367,573	
支出			
1. 事業費	393,929	1,772,000	
(1) 講演会費	(82,484)	(150,000)	セミナー開催費等
(2) 会議費	(108,432)	(230,000)	会場費、会議資料印刷費等
(3) WG研究事業費	(50,124)	(850,000)	WGの研究事業費、WG横断型取組み検討費
(4) 広報普及費	(120,539)	(500,000)	HP維持管理・更新料、大商会費、リーフレット印刷費等
(5) 消耗品費	(14,843)	(17,000)	封筒代等
(6) 通信運搬費	(17,507)	(25,000)	郵送料等
(7) コンペ事業費	(0)	(0)	
(8) 後援事業費	(0)	(0)	
2. 管理費	594,648	595,000	事務局費(振込手数料含む)
3. 予備費	0	573	
当期支出合計	988,577	2,367,573	
次期繰越金	1,127,564	0	

【2】認証制度特別会計

単位：円

	28年度実績	29年度予算	内 容
収入			
認証審査手数料	0	150,000	審査手数料
受取利息等	1	0	
前期繰越金	197,138	155,735	
当期収入合計	197,139	305,735	
支出			
1. 認証制度運営費	8,296	155,000	運営会会議費用等
2. 認証審査費	33,108	150,000	
(1) 審査会委員報酬費・旅費	(0)	(85,000)	認証審査費用(委員報酬等)
(2) 審査運営費	(0)	(32,000)	委託費(シミュレーション費等)
(3) 審査事務費	(33,108)	(33,000)	
3. 予備費	0	735	
当期支出合計	41,404	305,735	
次期繰越金	155,735	0	